

# 香取市地域公共交通協議会 (第26回協議会資料)

## 目次

<b>議事1</b>	地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について	……………2
------------	-------------------------	--------

# 議題1 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

## 1) 事業評価とは

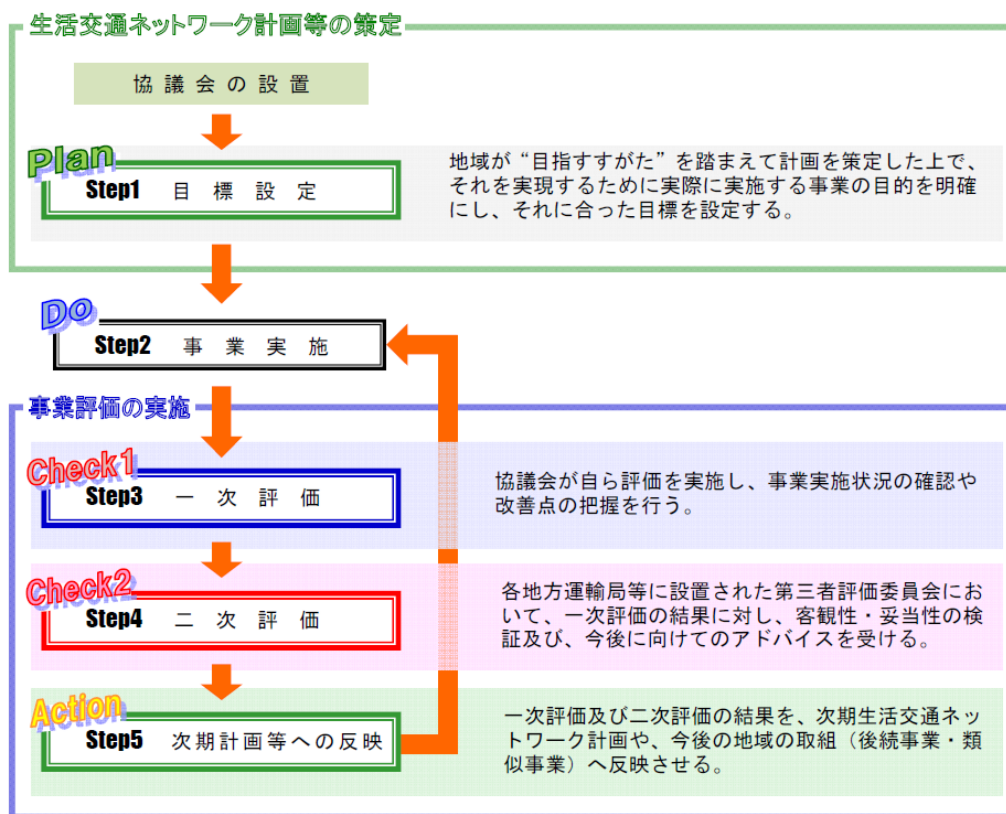
### (1) 地域公共交通確保維持改善事業と事業評価

香取市では地域公共交通確保維持改善事業を活用して、①小見川循環バス（活性化再生総合事業 H21.10～H24.3、確保維持事業 H24.4～）及び小見川乗合タクシーの運行（確保維持事業 H25.10～）や②福祉タクシーの導入（バリア解消促進等事業 H25.4～H26.3）を行ってきた。

本事業は、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組を国が支援する制度であるが、これらの取組は一過性のものではなく、継続的な実施が求められている。地域が実施した事業の内容を振り返って、目標の達成状況などを評価・分析し、次の取組に反映していくという継続的な取組が重要なことから、国土交通省では、それらの取組を「事業評価」として制度化した。

事業評価とは、地域公共交通確保維持改善事業を活用した事業について、次年度ないし将来の事業をより効果的・効率的に実施するために事業の実施状況等を振り返り評価するもの

### (2) 事業評価の流れ



※一次評価は、1月末日までに関東運輸局へ報告します。継続的事业である「確保維持事業（小見川循環バス・小見川乗合タクシー）」は二次評価が行われます。

### (3) 評価項目

地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通バリア解消促進等事業（以下「生活交通ネットワーク計画に基づく事業」という。）の評価については、運行系統、離島航（空）路、施設等の別ごとに、以下の評価項目について実施することが原則とされており、具体的には、「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目」に定められた様式に基づいて評価を行い報告することになる。

「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目」から抜粋

#### ①前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況

過去に実施した類似事業又は先行事業の評価結果を反映させた場合は、その事業評価結果をどのように反映させたのかを明らかにすること。

#### ②事業実施の適切性

生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施された（されている）か、評価を行うこと。計画どおり実施されなかった（されていない）場合には、理由等を明らかにすること。

#### ③生活交通確保維持改善計画における目標・効果の達成状況

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成できる見込み）か、設定した目標ごとに分析を行うこと。目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにすること。

#### ④事業の今後の改善点

実施した事業について改善点があるかどうかを、事業の目的の達成状況を考慮した上で検証すること。

必要に応じて、上記の検証結果を踏まえて地域における今後の取り組みでの具体的な改善策（又は改善の方向性）を検討すること（改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く検討すること。）。特に、地域公共交通確保維持事業においては、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか、方向性又は具体的な内容を検討すること。

併せて、より適切な目標設定について検討すること。

※なお、上記③について、生活交通ネットワーク計画において複数の運行系統、設備等を包括して目標・効果が記載されている場合は、事業の性質に応じ、当該複数運行系統、設備等を包括的に評価することができるものとされているため、小見川循環バスは2系統（「小見川駅～上の台～小見川駅」及び「小見川駅～城山公園～小見川駅」）を一括して評価します。

## 2) 事業評価の実施

評価対象:平成30年度地域公共交通確保維持事業(事業期間H29.10.1~H30.9.30)

本市では、(1)小見川循環バス と (2)小見川乗合タクシー の平成29年10月1日から平成30年9月30日までの運行分が該当する。

### (1) 小見川循環バス

#### ①概要

事業者名:千葉交通株式会社

運行系統:上の台経由、城山公園経由 計26.5km

運行日:月曜~金曜(土・日曜日、祝日、年末年始運休)

運行時間帯:6時25分~18時31分

運行本数:8便/日

運行車両:日野リエッセ(乗車定員37名) 1台

運賃:大人300円、中高生100円

小学生以下・障害者手帳所持者・・・無料

回数乗車券・・・12枚綴り3,000円(大人のみ)



#### ②目標の設定

【目標】 小見川循環バス:年間利用者数 15,000人

小見川循環バスは西ルートを引き続き運行する一方、H25.10月から一部ルートを変更し、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者の輸送に対応することとし、目標値はその要因を加味した値を設定した。

#### ③目標の達成状況

【実績】 小見川循環バス:年間利用者数 14,310人

#### ④利用状況

小見川循環バスの利用者状況の「前年度計画分（H28.10～H29.9）」の期間と「今年度計画分（H29.10～H30.9）」の期間の月別の利用者数は下記の通り。

##### i) 小見川循環バス合計

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
前年度	1,596	1,420	1,377	1,293	1,074	1,214	1,122	1,231	1,489	1,280	591	1,454	15,141
今年度	1,617	1,325	1,276	1,031	937	997	926	1,260	1,334	1,334	749	1,524	14,310
比較	21	-95	-101	-262	-137	-217	-196	29	-155	54	158	70	-831

##### ii) 上の台経由

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
前年度	440	427	482	413	430	549	467	469	524	552	509	473	5,735
今年度	501	551	594	403	477	518	529	539	510	501	494	441	6,058
比較	61	124	112	-10	47	-31	62	70	-14	-51	-15	-32	323

##### iii) 城山公園経由（主に小見川高校生が利用）

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
前年度	1,156	993	895	880	644	665	655	762	965	728	82	981	9,406
今年度	1,116	774	682	628	460	479	397	721	824	833	255	1,083	8,252
比較	-40	-219	-213	-252	-184	-186	-258	-41	-141	105	173	102	-1,154

#### ⑤考察

全体としては目標値を達成できなかったものの、上の台経由の利用者は増加しており、減少の要因は「小見川駅」バス停と「城山公園」バス停の間を利用する小見川高校生の利用者数が減少したことによるものである。

循環バスは高校生の利用の割合が大きく、生徒や学校の状況により毎年大きく利用が変動するため、予測が困難であった。小見川高校生新1年生に対し、バス利用促進のためチラシを配布したことで、5月以降の利用者が増加したと推測されるが、今後も、利用者数の推移を注意深く見ていくとともに、利用者数増加に向け、さらなる周知活動等を行っていく必要がある。



生活路線である小見川循環バスが維持され、高校生や高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保・維持されている。

## (2) 小見川乗合タクシー

### ①概要

事業者名：株式会社千葉交タクシー  
運行区域：小見川中央・東・南地区  
運行日：月曜～金曜（土・日曜日、祝日、年末年始運休）  
運行時間帯：8時～17時  
運行本数：9便／日  
運行車両：トヨタコンフォート（乗車定員5名） 2台  
運賃：大人400円、中高生200円、小学生100円  
障害者手帳所持者100円、介助者・未就学児・無料  
回数乗車券・・・12枚綴り4,000円（大人のみ）



### ②目標の設定

【目標】 小見川乗合タクシー：年間利用者数 5,100人

小見川乗合タクシーは、交通不便地域への面的な対応により、交通不便地域から小見川市街地及び交通結節点等への接続を想定した目標値を設定した。

### ③目標の達成状況

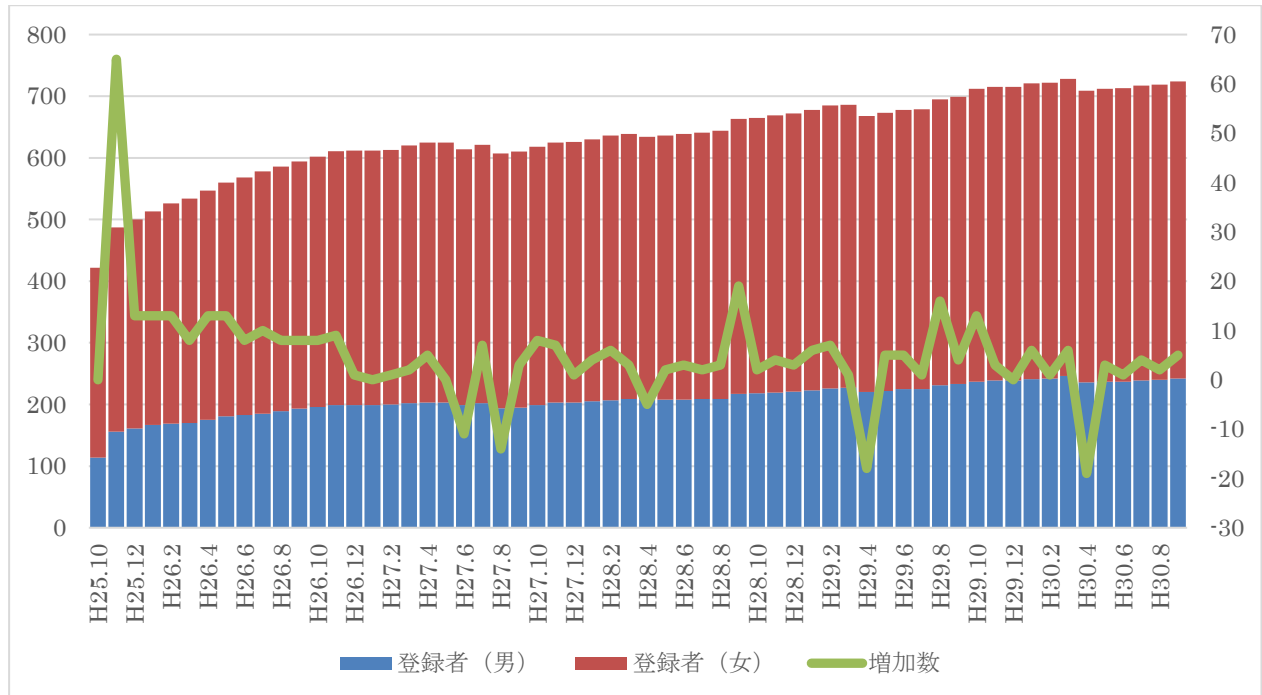
【実績】 小見川乗合タクシー：年間利用者数 5,988人

計画の目標値を上回る結果となった。  
利用者状況について、次頁のとおり分析を行った。

#### ④-1 登録状況

小見川乗合タクシーの運行当初からの登録状況の推移、また登録者の平成26年9月末と平成30年9月末の内訳の比較は下記の通り。

i) 登録者数（棒グラフ：左目盛）、前月からの増加数（折れ線グラフ：右目盛）



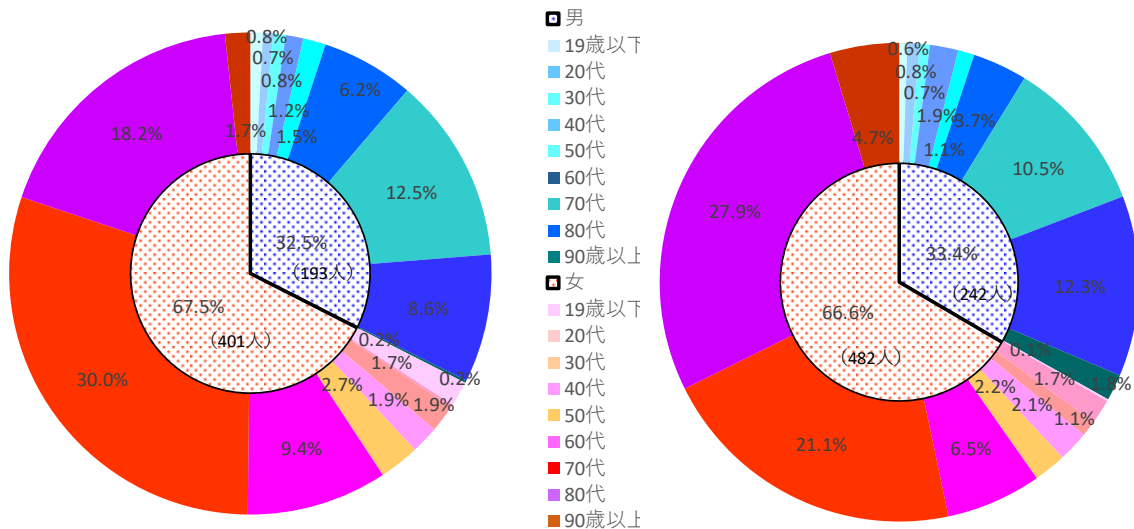
※H27.6、H27.8、H28.4、H29.4、H30.4に、登録者の中から「死亡された方等についての登録解除」を実施

ii) 平成26年9月と平成30年9月の登録者内訳の比較  
登録者の男女、年齢別の内訳

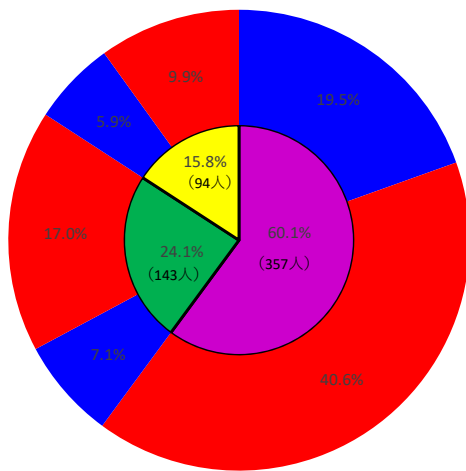
【平成26年9月末】

→

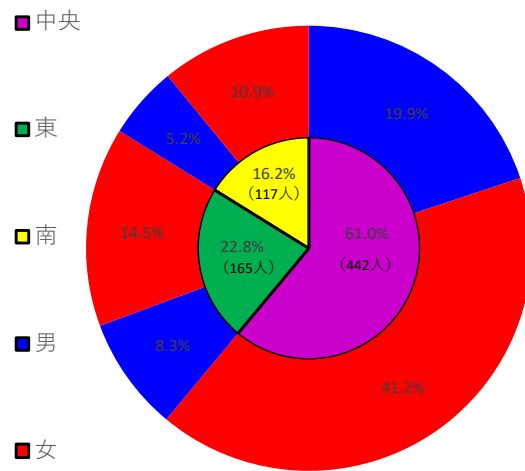
【平成30年9月末】



• 登録者の地区ごとの内訳  
【平成 26 年 9 月末】



→ 【平 30 年 9 月末】



登録者の推移については、ここ 1 年は月 4 件程度の新規登録者という状況になっており、男女別・地区別については、傾向に大きな変化はない。  
登録者の年齢層のうち、高齢者（80 代以上）の割合が高まってきている。



#### ④-2 利用状況

小見川乗合タクシーの利用者状況の「前年度計画分（H28.10～H29.9）」の期間と「今年度計画分（H29.10～H30.9）」の期間の利用者数については、下記の通りであった。

##### i) 月別延べ利用者数

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
前年度	429	411	501	374	423	472	475	463	591	498	515	519	5,671
今年度	497	476	526	412	459	489	487	501	511	553	573	504	5,988
比較	68	65	25	38	36	17	12	38	-80	55	58	-15	317

##### ii) 1日当たりの平均利用者数

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
前年度	21.5	20.6	26.4	19.7	21.2	21.5	23.8	23.2	26.9	24.9	23.4	26.0	23.3
今年度	23.7	23.8	26.3	21.7	24.2	23.3	24.4	23.9	24.3	26.3	24.9	28.0	24.6
比較	2.2	3.2	-0.1	2.0	3.0	1.8	0.6	0.7	-2.6	1.4	1.5	2.0	1.3

##### iii) 1月あたりの実利用者数

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
前年度	85	92	88	88	97	97	88	98	101	105	101	107
今年度	113	102	105	99	104	93	101	111	108	106	118	108
比較	28	10	17	11	7	-4	13	13	7	1	17	1

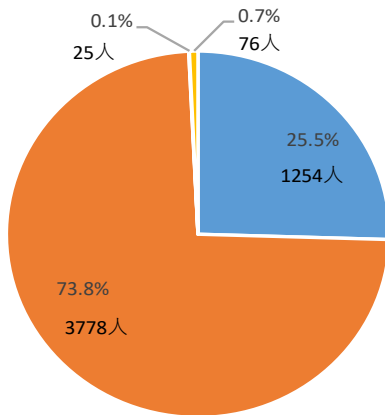
##### iv) 1便当たりの乗車人数

期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
前年度	1.6	1.7	1.8	1.6	1.7	1.6	1.7	1.8	1.9	1.8	1.8	1.9	1.7
今年度	1.9	1.8	1.9	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7	1.8	1.9	1.9	1.9	1.8
比較	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	-0.1	-0.1	0.1	0.1	0.0	0.1

前年度計画基期間と比較し、延べ利用者数で317人の増、1日当たりの平均利用者も1.3人の増となった。

月別の実利用者数も増加してきている。

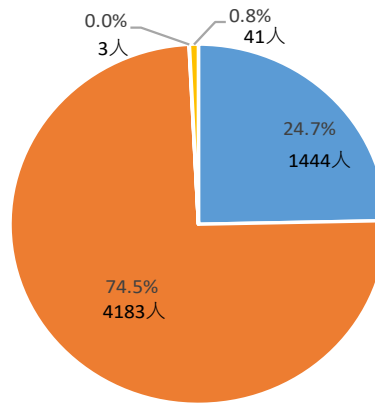
v) 男女等の内訳  
【前年度計画分】



→

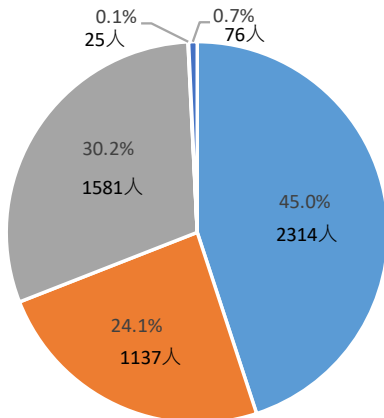
【今年度計画分】

- 男
- 女
- 小学生以下
- 介助者



利用者の男女別の割合は、ほぼ変わらない。

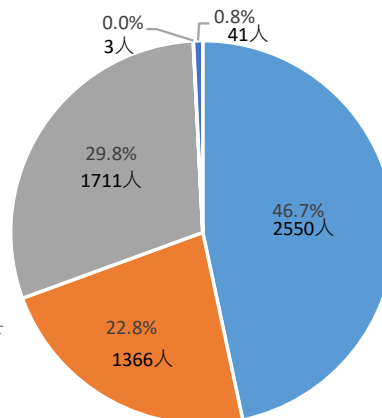
vi) 地区ごとの内訳  
【前年度計画分】



→

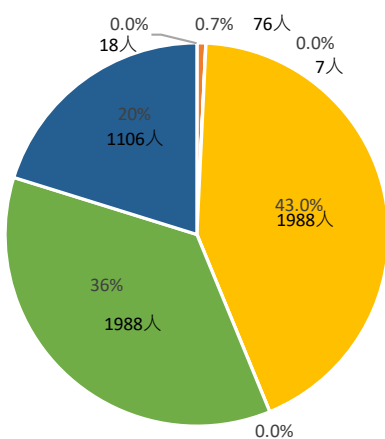
【今年度計画分】

- 中央
- 東
- 南
- 小学生以下
- 介助者



地区ごとの利用割合に大きな変化はない。

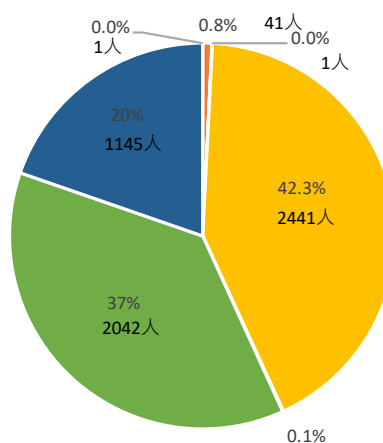
vii) 料金区分ごとの内訳  
【前年度計画分】



→

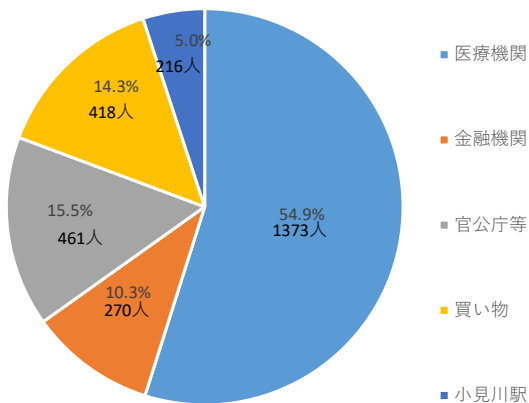
【今年度計画分】

- 0円 (就学前)
- 0円 (介助者)
- 100円 (小学生)
- 100円 (障害者)
- 200円 (中高生)
- 400円 (一般)
- 回数券 (一般)



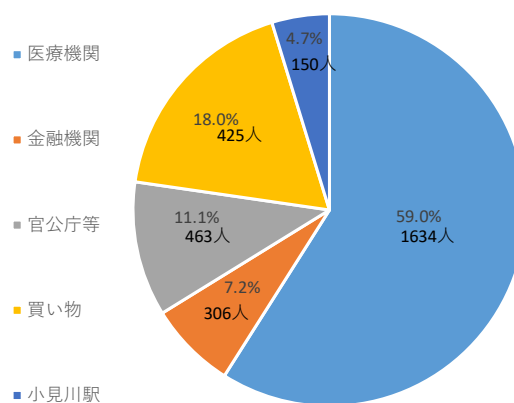
料金区分ごとの割合に大きな変化はない。

viii) 目的地別の内訳  
【前年度計画分】



→

【今年度計画分】



目的地別では、医療機関の利用割合が増えている。

⑤考察

登録者数は徐々に増加しているが大きな変動はなく、登録者の年齢層の上昇は、経年によるものと、新規登録者の6割以上が70歳以上となっているためと思われる。

利用者数については、昨年度実績を上回り、また目標値も上回る結果となった。

実利用者数も増加してきており、徐々に地域の方への認知も進んでいるのではないかとと思われる。

今後はより一層の周知を進め、登録しているがまだ利用に至っていない方や、現在は自身で交通手段が確保できているが、今後難しくなってくると想定される方等への周知も含め、幅広い方に利用されるよう利用促進を進めていく必要がある。



小見川地区に存在する交通不便地域の一部が解消され、高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保・維持された。

3) 協議事項

以上の分析・評価結果を踏まえ、資料1~7の通り、自己評価書類として所定様式及び添付資料を関東運輸局へ提出したい。